

CONTENTS

目次／編集方針	2
会社概要／事業内容	3
■ 社長メッセージ	4
■ 特集:中之島線	6
■ 京阪グループのCSR	
経営理念／経営姿勢／経営理念体系図	8
経営ビジョン／ブランド経営	9
京阪グループ行動憲章	10
京阪電鉄とステークホルダー	11
コーポレートガバナンス	12
CSR推進体制	13
■ 安全への取り組み [安全報告書]	
安全統括管理者ごあいさつ／安全基本方針	14
安全マネジメントの仕組み	15
安全重点施策	16
安全運転のために	18
現場での取り組み	19
安全のための訓練・日々の管理	20
列車事故防止のために	21
自然災害対策／駅の安全のために	22
踏切の安全のために／大津線の安全のために	23
鉄道事故と輸送障害／安全投資	24
踏切での啓発活動／お客さまへのお願い	25
■ お客さま満足のために	
お客さまセンターの開設／CS推進体制	26
お客さまにやさしい駅	27
クオリティ・アップ宣言／駅のバリアフリーほか	28
PiTaPaサービス／女性専用車両の導入ほか	29
情報開示・コミュニケーション・情報セキュリティ	30
■ 株主・投資家のために	
情報開示・コミュニケーション／株主総会／株主優待制度／インサイダー取引の防止	31
■ 従業員のために	
従業員の労働環境について	32
労働安全衛生	33
■ 地域社会のために	
パートナーシップ大賞を受賞	34
体験学習会／「こども110番の駅」の取り組みほか	35
■ 環境への取り組み	
環境管理責任者ごあいさつ／環境理念・環境方針	36
全社で推進する環境マネジメント経営	37
環境マネジメントシステム／環境マネジメントの体制ほか	38
環境負荷削減の目標・実績	39
事業活動に伴う環境負荷(マテリアルバランス)	40
地球温暖化防止の取り組み(エネルギーの削減)	41
地球温暖化防止の取り組み(公共交通利用の促進)	42
騒音・振動の低減	43
その他の取り組み／環境情報開示	44
不動産事業、レジャー事業における取り組み	45
環境会計	46
京阪グループにおける環境マネジメント	47
■ 第三者意見	48

□ 編集方針

当社は平成16年より環境報告書を発行してきましたが、企業の社会的責任への関心の高まりを踏まえ、昨年、初めての「CSR報告書2007」を発行しました。今年度の「CSR報告書2008」は、情報の精査・充実、活動の可視化を心がけて編集しました。また、ステークホルダー別の編集とし、わかりやすさを重視しています。

なお、本報告書は、鉄道事業法の改正に伴い公表を義務付けられている「安全報告書」を兼ねています。

● 報告範囲

京阪電気鉄道株式会社の事業活動を報告対象としています。

※環境負荷データ、環境会計データは当社および株式会社京阪ビジネスマネジメント、株式会社京阪ステーションマネジメントを対象としています。

※グループ会社の環境活動についても紹介しています。

※その他活動報告の中にグループ会社の活動が一部含まれている場合があります。

● 報告書対象期間

平成19年(2007年)度(平成19年4月1日～平成20年3月31日)。

ただし、一部に平成19年度以前、以後の活動の記載を含んでいます。

● 参考にしたガイドライン

- ◆ GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン2006
- ◆ 環境報告ガイドライン(2007年版)
- ◆ 環境会計ガイドライン(2005年版)
- ◆ 民鉄事業環境会計ガイドライン(2008年版)
(社団法人日本民営鉄道協会編)

● 発行日 平成20年8月

● 次回発行予定 平成21年8月予定

● お問い合わせ先

京阪電気鉄道株式会社
経営統括室経営政策担当 CSR報告書作成事務局
TEL:06-6944-2529 FAX:06-6944-2584

CSRとは >>>

「Corporate Social Responsibility」の略で、「企業の社会的責任」という意味です。

企業の不祥事が多発する中、企業が顧客、地域社会、株主、従業員、地球環境など、周囲をとりまく利害関係者(ステークホルダー)とどう向き合っていくのか、ということが課題となっています。

CSR報告書は、企業のステークホルダーとのかかわりを開示することで、取り組みをご理解いただくとともに、自社の活動を検証するためのものです。